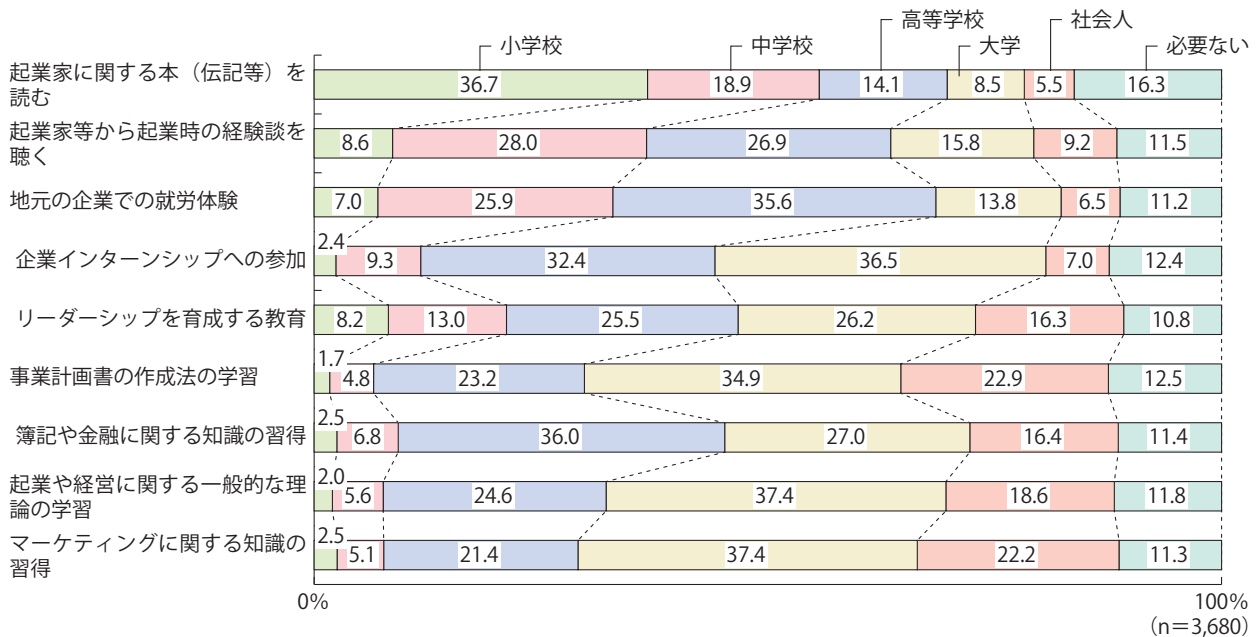


では、起業に関心を持ってもらうために、どのような教育を、どの時期に行えば良いかについて聞いたのが、第3-2-39図である。これによると、初等教育段階から伝記や体験談、社会経験のような形で起業家と接点を持たせること、中等、高等、

大学教育段階で、インターンシップや簿記、金融、マーケティング等の実務的なことを教育するべき、という意見が多く、必要がないと回答した割合は約1割であった。

第3-2-39図 実施すべき起業家教育とその時期



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）

特に、起業家と触れ合う時間を作ることは、起業に関心を持ってもらう上で重要である。このような問題意識において、起業のステージごとに周囲の起業家の存在の有無を聞いたのが、第3-2-40図である。これによると、起業無関心層や潜在的起業希望者は、周囲に起業家がない者が多く、そのことが、「起業」に関心や現実感を持っていない一因となっていると考えられる。特に、前述

したように、若者が起業を意識したきっかけとして、周囲の起業家の影響と回答する割合が高く(第3-2-13図)、人生の早い段階で起業家に触れることで、将来の選択肢の一つとして起業を意識することができ、雇用されるだけでなく、起業を含めた、より多様性のある職業選択が可能になると考えられる。